

千葉市動物公園に行ってきました!

やまもも保育所 芳我 岳陽

10月12日(火)、すいせん組の年長・年中の子ども達と千葉市動物公園に行ってきました。

時は遡ること9月某日。K君が何やら楽しそうに絵を描いていました。

何を描いているの? と聞くと、「キクガシラコウモリだよ。」とK君。

え? キク? そんなんいるの? そう。K君はクラス一の動物好き。中でも爬虫類とコウモリが大好き。そんなマニアックな彼が一番楽しみにしていたのが、「動物園でコウモリを見ること」でした。

当日は、朝から濃く重たそうな灰色の空模様。時折肌に当たるかすかな雨粒に不安になりながらも、「多分大丈夫。おそらく降られない。」という根拠のない自信がありました。さあ、園に残る子達に手を振って病院バスに乗って出発!

車内ではコロナ禍ということもあり、皆マスクをつけて小声で会話。「このお店、行ったことある!」「ここのラーメン屋さん美味しいよ」「ここから揚げ、チョコ美味しい!」「ママのメイクは20分かかるんだ」などと話をしていると、気が付けば車のワイパーが絶賛フル稼働中。いよいよだめか? と思いましたが、動物公園に到着すると雨はあがっていて空も幾分明るくなって一安心。

園のゲートをくぐり、動物の足跡がペイントしてある坂道をテクテク登っていきます。

まず最初に目に飛び込んできたのはアジアゾウ。岩の上に登って大きな体躯を前後に揺らし、まるで踊っているようでした。



広場にリュックを置き、前半のメインイベント、アシカとペンギンを見に行きました。

さあ、アシカたち! その泳ぎを子どもたちに見せてあげてくれ! と思って目をやると、いつも透き通っているはずの水がまるでおじゃが池のような緑色に。アオミドロや藻に覆われて、透明度はゼロに近い状態。

こりゃどうしたことか。でも、たまにガラスに近い近づいてくるアシカが、突然幻のように浮き出てくる様が面白く、みなしばし見とれていました。

お腹が空いたところでお待ちかねのお弁当タイム。お母さんの作ってくれた愛情たっぷり弁当をたいらげたら、いよいよ後半戦へ。

動物好きのK君が楽しみにしていたコウモリを見に、動物科学館へ。



向かう途中、遠くから野性的な叫び声が聞こえてきました。「フクロテナガザルが鳴いている！」ということで、急ぎ足に彼らのすむ場所へ向かいました。

到着すると、ロープに両手でぶら下がり、時折余韻程度に鳴くフクロテナガザル。終わってしまったか？ と思いましたが、筆者の隣にいたHちゃんとI君が「もっとやってー！」と声をかけると、その声に応えるようにまた2匹の猿が鳴き、踊り始めてくれました！ これにはみんな大喜びでした。



さて、それでは本題の動物科学館の夜行生物ゾーンへ。

暗いトンネルを潜ると、さあKちゃん。憧れのコウモリといきなりご対面！

…いや暗！ 見えづら！ え？ 一瞬羽ばたいたのあれコウモリ？ それよりも窓にへばりついてるゴキブ〇が気になって…地味じゃない？ と筆者は思いました。いや、みんな思いました。しかし、K君だけは静かに、固唾を飲んでコウモリの次のアクションを待ち構えていました。するとまた、バサバサ…。



そして静かに一言。「…うわあ。すげえ。コウモリだ。」

感動してしばし見入るK君。この姿に私は何故か感動してしまいました。だれが何と言おうと自分の「好き」を素直に追及できる心。大事だよなあ…としみじみ感じさせてくれた一幕でした。

さて、夜行生物ゾーンを抜けると、チンパンジーやゴリラが住む部屋にやってきました。チンパンジーは首を左右にリズムカルに踊るように動かしながら、こちらを見えています。

ことチンパンジーとは、心を通わせられる根拠のない自信がある筆者が、チンパンジーの真似をしてみると、「お？ お前、できんの？」的な感じで立ち上がり、手を振ってきました。こちらも嬉しくなり手を振り返すと、体を左右に揺らしながらチンパンジーが近寄ってくるではありませんか！ そして窓際に肘をつけてコミュニケーションしようとしているのが分かります。

こりゃすごい！ みんなも大喜び！ 良かったね！ と思っていたら、「ねえ、次行こうよ」とK君。これよりコウモリなんだね、君は…。



楽しかった遠足もあっという間。帰りのバスでは「俺、絶対寝ないからねー」と言っていたS君やI君は5分後には御就寝。夢の中で余韻を楽しんでいました。

最後になりますが、バスの運転はおろか、園の中まで同行していただいた施設管理課の武井さん。ありがとうございました。

